

お 名 前	性 別	終戦時の年齢	現 住 所
藤井 苑江 (旧姓 三室)	女 性	1 7 歳	東京都北区

「新城高女と海軍工 廠」

総務部労務係報国団

思い起こせば、昭和13年頃から戦争色が濃くなり、お菓子も少なくなって行列で買うほどで、子供なりに食糧難を感じるようになりました。小学校では軍歌を覚えるために、全員廊下に並び、拡声器から流れる音楽に合わせて歌いました。兵隊さんに慰問袋を送るようになったのもその頃です。



昭和16年東郷村で勤労奉仕 写真提供:藤井さん

私は、新城国民学校卒業後、新城高等女学校への進学をめざしましたが、入学試験も戦争の影響で「それどころではない」

ということなのか、私たちの時は筆記試験ではなく、各科目ごとの教室で、口頭試問だけで入学しました。体育だけが実技だったと思います。合格して女学生になった喜びと不安の気持ちも安定しない1年生の12月に、大東亜戦争が勃発しました。「畏し 宣戦の 大御言 ♪……」と宣戦布告の歌を講堂で歌ったことを覚えていいます。制服もセーラー服から国民服に変わりました。3年の夏には、健康診断に合格した人たちが海軍工廠へ奉仕に行くことになりましたが、私はその時、虚弱体質という理由で居残り組となり、「体力増進せよ」ということか、桜淵で水泳訓練をしました。この時の写真を見ると、4年生と合同訓練だったようです。



昭和18年7月 桜淵で水泳教練 写真提供:浅見英紀さん

次の年には、いよいよ学徒動員が始まり、新城高女は学年全員、海軍工廠の総務部と会計部に配属されました。新城小学校の仲間は大体労務部と刷版工場でした。刷版工場

は、動員された当初は庁舎と同じ敷地内にあったと思いますが、まもなく廠外に移転されたように記憶しています。私は総務部労務係報国団に配属されました。服装も国防色の作業服となり、ますます戦時中の感が強くなりました。でも、動

員されて1年ぐらいは、バレーボール大会もあり、新城高女は浜松の学校に負けましたが3位だったことを覚えています。娯楽もなかったわけではなく、エノケン劇団、桜井軽音楽団、宝塚歌劇、松竹少女歌劇等々を観劇することができ、楽しいこともありました。庁舎の前に特設の野外ステージが用意され、演奏してくれました。

その後もだんだんと戦況も悪くなっていきました。昭和19年の12月7日に東南海地震があり、その被害があったためか、人が増えたためか、私たち労務部の一部だったかは定かではありませんが、庁舎から正門の外の建物に移りました。正門の南にある工廠神社の近くだったと記憶しています。第一工員養成所の敷地内だったと思います。

その場所から見た光景が目に焼きついていきます。アメリカの艦載機が、2階の窓をふさぐほどの低空飛行でやってきたのです。初めて目の前を通る艦載機の大きな機体に、恐ろしさに動けなくなってしまいました。記録では、昭和20年5月19日となっています。この時、工廠に初めて爆弾が落とされたのです。本部から少し東側にある指揮兵器部が爆撃され、40人ぐらいの人が亡くなりました。私たちの班は報国団といって、工廠員のお世話をする係ということで、亡くなられた方々の事後処理に大わらわとなりました。私はその時もハンカチで頭を冷やしながら頭痛をこらえて、お手伝いをしました。今思えば、それはストレスの現れだったのでしょう。

○ 大切な友のこと

特に印象に残っているのは、20年4月に山梨の都留高等女学校から転校してこられた横内学代さんです。お父様が国鉄にお勤めで、転勤のため新城高女に来られたのです。ちょっとおませなお姉さんタイプで、明るく優しい人柄で、大月とか谷村とか山梨の話をよく聞かせてくれました。お昼休みなどお互いに好きな歌を楽しんだものです。転入以来ずっとお友達で、思い出が多いです。

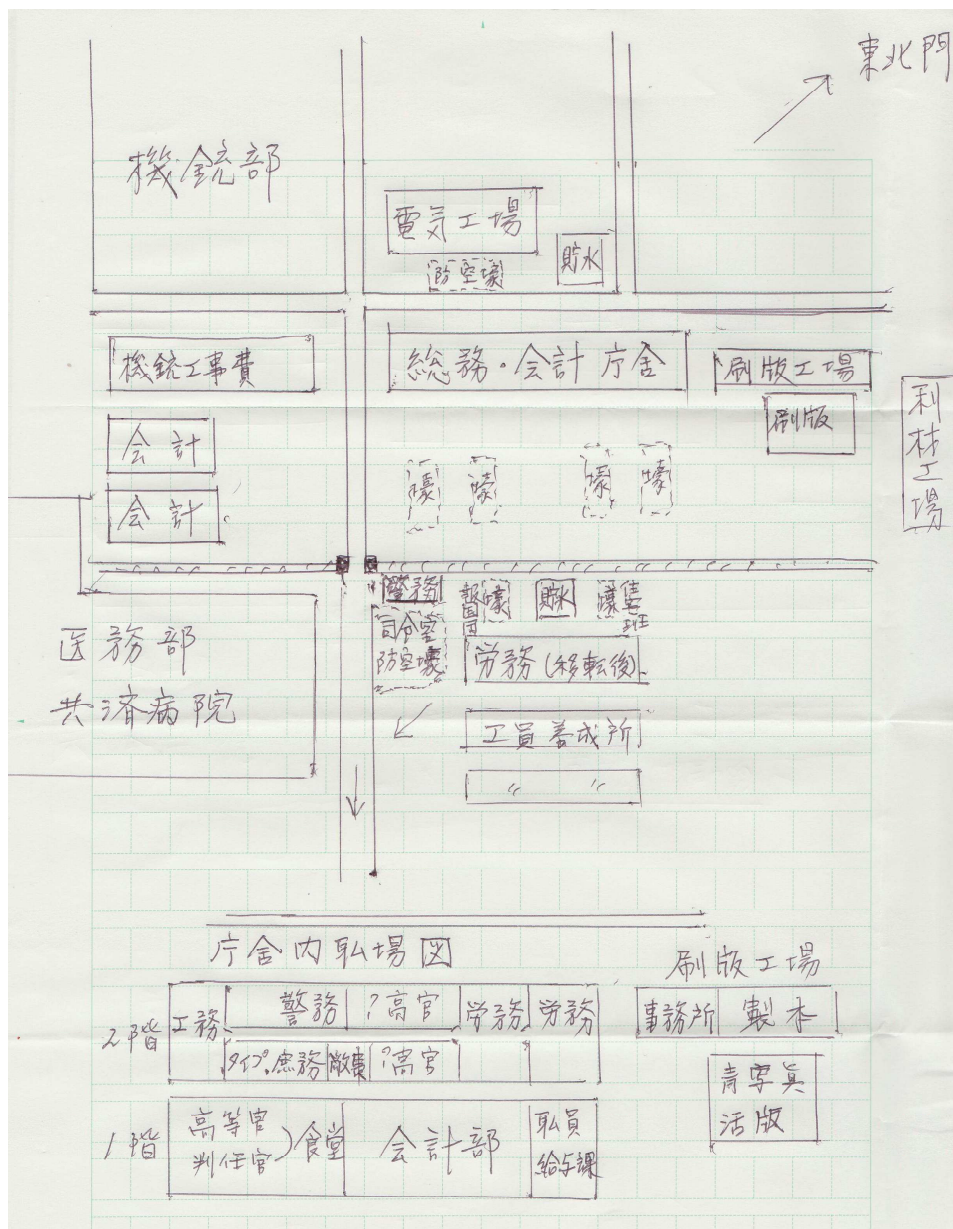
あの爆撃の日、私は体調不良で休むことになり、診断書を職場に届けてもらうため、新城駅で横内さんをお願いしたのが最後の別れになってしまいました。何ということでしょう。私が出勤していれば、きっと同じ運命となったと思うと、何とも言葉がありません。短いお付き合いでしたが、忘れることのできないお一人です。



昭和17年2年生の夏 同級生と 写真提供:藤井さん

また、報国団で一緒に仕事をした平尾美智子さん、渡辺茂子さんと私の三人は毎日行動を共にし、警報が出るたびに小さな防空壕と一緒に入りました。8月7日の空襲では、お二人ともその壕に入っていたそうですが、工員で班長（主任？）の山田さんの「今だ！」というひと言で外に飛び出し、悲惨な状況の中を方角も分からないまま無我夢中で走ったそうです。からくも爆撃の被害をまぬがれることができたようですが、その時の恐怖は思い出したくもないようです。私がその時のことを尋ねても、今でもあまり語っていただけません。思い出すのは、とても辛いことなんだと察しています。

若くして亡くなられた方々、大怪我をされて戦後も苦しまれた方々に、申し訳ない気持ちでいっぱいです。私たちは、八十路もあとわずかとなりました。若い方々には、私たちの体験を知っていただいて、将来の平和のために役立てていただければありがたいです。



藤井さんが描かれた工廠内配置図（下図は庁舎の配置図 二階が総務部・一階が会計部）